

## はしがき

新卒看護師の就職後早期の離職は、若者の脆弱性や、医療の高度化などを背景に、今後ますます進むだろうと予見できる。近年の新卒看護師の研究は非常に多く、新卒看護師の離職というこの現象は、当事者である新卒看護師の心理的な苦悩の解決と併せて、新卒看護師を迎え入れる臨床の場にある指導のあり方について問題を投げかけてきた。より質の高い看護を構築しようとするとき、臨床での士気を高め、現実的な取り組みを実践していくうえで腰をすえた解決策が求められている。

この研究報告書は、専門領域の異なる教員同士が、互いの関心を寄せ合い、協同でできる創造的な取り組みを模索した結果行き着いたテーマを基本に据え、2年にわたって取り組んだ成果である。

当初は、質的研究についての勉強会に始まったが、ある新卒者が配属希望と異なる現場に配置され、臨床での一歩を何か踏み外し、これから彼女がどうやって気持ちを盛り立てていくのだろうと議論になった。

大学から送り出した卒業生が、志し半ばにも辿り着かない前に、就職した病院を退職し、相談をしに研究室を訪ねてくることがある。そのたびに漏れ聞く当事者の苦しみの中に、いくつかの問題点が浮き彫りにされていることもあり、医療体制、看護基礎教育の技術や知識的な到達内容、配属された病棟でのできごとなど、当事者努力だけでは解決できないことも含まれている。

卒業して間もない若い看護師が現場に適應できない状況には果たして何があるのだろうか。その疑問を当事者の体験をもとにじっくりと聞き込んでいきたい。それらがこの研究に取り組む最初の動機となった。

研究を始めていくと、研究に関心を寄せ、協力してくれた新卒者たちが体験を語りながら涙ぐむことがあった。最初のインタビューからまもなくその状況があり、涙を拭くティッシュペーパーと気持ちを和らげるためのお茶とお菓子が面接の際の必需品となった。そして驚くことに、そのティッシュペーパーとお茶とお菓子を使う機会もたびたびあった。24名の語りは病院によってあるいは病棟によってとても異なるもので、とても居心地よいと感じるものもあれば、つらい体験だったとして語るものもがあった。実にさまざまな体験が豊かに語られ続けた。

データの分析の際には、あまりにも多くの貴重な語りであったために、研究者はみなデータにつぶされそうになりながら何回も読み続けた。そのため、2008年の4月に、ぜひ新人教育に間に合わせてほしいと思い、一旦中間報告としてまとめ、協力いただいた医療施設のトップ宛にお送りしたが、そこから実に長い時間が分析を終える今日まで必要となってしまった。

分析にあたり、新卒ではない新人看護師の皆様にも協力いただいたその内容を、この報告書の中には盛り込むことができなかった。新卒者とは異なる体験がそこにはあり、同じように

分析するよりは、違う形で光を当てたいと思ったからである。この報告書に含まれなかった 4 名の方にこころよりお詫び申し上げたい。同時に、同じ新人であっても、他の病院で経験されるということは、必ずその人自身の体験としていき続けていて、明らかに成長しているという実感とその語りによって得られたことをお伝えしておきたい。

最後に、あらためて、ご協力いただいた施設とその看護部の広いお心に感謝申し上げるとともに、貴重な体験を振り返ってくださった研究協力者の皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思う。

研究代表者 粟生田友子

この報告書が新卒看護師の育成のためにお役立ていただけますように。

研究者一同

#### この研究の一部は以下の学会で発表しました。

大久保明子，西方真弓，浦山留美，横田陽子，粟生田友子(2008)：新人看護師の職場認知と適応に関する質的研究，第 18 回日本看護学教育学会講演集，233，茨城

浦山留美，粟生田友子，大久保明子，西方真弓，横田陽子(2008)：新人看護師の職場認知と適応に関する研究（その 1）－自己の成長の自覚を中心に－，第 28 回日本看護科学学会講演集，368，福岡

西方真弓，横田陽子，大久保明子，粟生田友子，浦山留美(2008)：新人看護師の職場認知と適応に関する研究（その 2）－乗り越えのパワーを中心に－，第 28 回日本看護科学学会講演集，369，福岡

横田陽子，粟生田友子，西方真弓，浦山留美，大久保明子(2008)：新人看護師の職場認知と適応に関する研究（その 3）－指導の要素を中心に－，第 28 回日本看護科学学会講演集，369，福岡

#### この報告書に関するお問い合わせ先

研究代表 粟生田友子

研究者 西方真弓 大久保明子 横田陽子 浦山留美

住所 〒943-0147

新潟県上越市新南町 240 新潟県立看護大学

電話 025-526-2811（代表）